



日産化学株式会社

2025年3月期 第3四半期決算説明電話会議

説明者

取締役 専務執行役員 CFO 大門秀樹

2025年2月7日

<p>3Q 前年同期比</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 売上高は、70億円増収(+14%) ■ 営業利益は、35億円増益(+36%) ■ 純利益は、47億円増益(+73%)
<p>1-3Q 累計※1 前年同期比</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 売上高は、195億円増収(+13%) ■ 営業利益は、77億円増益(+23%) ■ 純利益は、57億円増益(+22%)
<p>※1 以後、1-3Qと記載</p>	
<p>3Q 業績予想比 (2024年11月発表予想との比較)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 売上高は、44億円上ぶれ ■ 営業利益は、34億円上ぶれ ■ 純利益は、40億円上ぶれ
<p>業績予想の修正</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2024年11月発表の通期業績予想を上方修正(p37参照)
<p>株主還元</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 配当予想 通期164円(前年比:同額、2024年11月発表比:変更なし) ■ 自己株式取得 100億円完了(2024年5月~12月) ■ 総還元性向予想79.4%

大門：日産化学、大門でございます。本日はお忙しいところ、ありがとうございます。それではご説明いたします。資料に沿って、まず4ページでございます。

この3Qの決算サマリーということで、一番上の箱でございますが、この3Qに関しては前年同期比で売上高では70億円の増収プラス14%。営業利益は35億円の増益プラス36%。純利益は47億円の増益プラス73%となりました。

1-3Q累計9カ月分では、そこに書いてございますように、営業利益でいいますと77億円の前年対比の増益プラス23%となっております。

また、11月に発表いたしました業績予想と比較しますと、3Qは営業利益では34億円の上振れということになりました。

業績予想の修正でございます。既に発表しておりますけれども、のちほど申し上げますが、通期の業績予想については上方修正をしております。

最後に株主還元でございますが、配当につきましては164円と、11月発表から変更ございません。それから自己株取得についても12月で100億円の取得を完了しております。総還元性向はこの結果79.4%という予想値となります。

2024年度3Q決算サマリー 前年同期比



(億円)

	2023年度 実績			2024年度 実績			前年同期比		
	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q
売上高	1,057	496	1,553	1,182	566	1,748	+125 (+12%)	+70 (+14%)	+195 (+13%)
営業利益	241	93	334	283	128	411	+42 (+18%)	+35 (+36%)	+77 (+23%)
営業外損益	21	-5	16	-4	26	22	-25	+31	+6
為替差損益	19	-8	11	-8	18	10	-27	+26	-1
経常利益	262	88	350	279	154	433	+17 (+7%)	+66 (+74%)	+83 (+24%)
特別損益	6	0	6	8	0	8	+2	0	+2
純利益 ^{※1}	195	65	260	205	112	317	+10 (+5%)	+47 (+73%)	+57 (+22%)
EBITDA ^{※2}	300	129	429	345	167	512	+45	+38	+83
EPS(円/株)	139.55	46.47	186.02	148.78	81.49	230.27	+9.23	+35.02	+44.25
配当(円/株)	70	-	70	70	-	70	0	-	0
配当総額	98	-	98	96	-	96	-2	-	-2
売上高営業利益率	22.8%	18.8%	21.5%	24.0%	22.5%	23.5%	+1.2pt	+3.7pt	+2.0pt
為替レート(円/ドル)	141	148	143	153	152	153	-	-	-
原油(JCC)(ドル/bbl) ^{※3}	83	91	86	87	78	84	-	-	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す

※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

※3 実績は財務省貿易統計ベース

具体的な数字は次の5ページでございます。

真ん中に3Qと1-3Qの数字がございます。具体的な数字で言いますと、この3Qは売上高で566億円、営業利益で128億円、経常利益は154億円、当期純利益で112億円ということでございました。

為替レートにつきましては、この3Q平均値が152円ということでございますが、12月末は158円ということで、かなりドル高に振れております。

2024年度3Q決算サマリー 業績予想比

(億円)

	2024年度 予想 (2024年11月発表)		2024年度 実績		業績予想比
	3Q	1-3Q	3Q	1-3Q	3Q
売上高	522	1,704	566	1,748	+44
営業利益	94	377	128	411	+34
営業外損益	3	-1	26	22	+23
為替差損益	0	-8	18	10	+18
経常利益	97	376	154	433	+57
特別損益	0	8	0	8	0
純利益 ^{※1}	72	277	112	317	+40
EBITDA ^{※2}	-	-	167	512	-
EPS(円/株)	-	-	81.49	230.27	-
配当(円/株)	-	70	-	70	-
配当総額	-	96	-	96	-
売上高営業利益率	18.0%	22.2%	22.5%	23.5%	-
為替レート(円/ドル)	145	150	152	153	-
原油(JCC)(ドル/bbl) ^{※3}	87	87	78	84	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す ※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 ※3 実績は財務省貿易統計ベース

| 6

次の6ページは業績予想比でございますので、一番右の列につきましては先ほど冒頭で申し上げた通りでございます。のちほどご確認ください。

営業利益の増減分析

	2024年度 実績	2023年度 実績	前年同期比	業績予想(2024年11月発表)	業績予想比
3Q	128 億円	93 億円	+35 億円(+36%)	94 億円	+34 億円
化学品	前年同期比 +1億円 業績予想比 3億円上ぶれ		環境化学品・ファインオキシコール等の増収により増益 売上高ほぼ予想通りも、固定費等 ^{※1} の下ぶれ(増益要因)により利益上ぶれ		
機能性材料	前年同期比 +16億円 業績予想比 6億円上ぶれ		ディスプレイ・半導体・無機増収により増益 ディスプレイ・無機上ぶれにより利益上ぶれ		
農業化学品	前年同期比 +8億円 業績予想比 13億円上ぶれ		パーミット・ライメイ等の増収により増益 パーミット・タルガ等の上ぶれにより利益上ぶれ		
ヘルスケア	前年同期比 -2億円 業績予想比 予想通り		リパロ・ファインテック減収により減益		
1-3Q	411 億円	334 億円	+77 億円(+23%)		
化学品	前年同期比 -2億円		高純度硫酸・テビック等で増収も、固定費等増加により減益		
機能性材料	前年同期比 +49億円		ディスプレイ・半導体・無機増収により増益		
農業化学品	前年同期比 +34億円		フルラナネル・グレーシア等の増収により増益		
ヘルスケア	前年同期比 -7億円		リパロ減収により減益		

※1 固定費等には在庫変動影響を含む

| 7

7 ページ。いつものようにセグメント別の営業利益の増減要因をお示ししております。

会社合計で、この3Qは前年比で営業利益が35億円増益ということになりましたが、業績予想比でもほぼ同じぐらいの上振れということです。

特に目立ちますのは、真ん中やや上の機能性材料、それから農業化学品でございまして、機能性材料で言えば、前年同期比でプラス16億円の増益。ディスプレイ・半導体・無機、それぞれ増収ということになりました。

また業績予想比でも、特にディスプレイ・無機の上振れにより、上振れております。

農業化学品はそこに記載の通り、パーミット・ライメイ等の増収により増益。これは業績予想比でもほぼ同様ということでございます。

また、1-3Qの累計につきましては、その下段でございますけども、77億円の増益の内訳をセグメント別に書いております。記載の通り、機能性と農業化学品というところが牽引しているのは、先ほどの3Qと同様でございます。

営業外損益・特別損益の内訳 前年同期比

(億円)

	2023年度 実績			2024年度 実績			前年同期比		
	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q
受取利息・配当金	4.4	3.0	7.4	5.9	6.6	12.5	+1.5	+3.6	+5.1
持分法投資損益	4.0	1.0	5.0	1.4	3.3	4.7	-2.6	+2.3	-0.3
為替差損益 ^{※1}	18.8	-8.0	10.8	-8.3	17.8	9.5	-27.1	+25.8	-1.3
支払利息	-2.6	-1.2	-3.8	-3.5	-1.4	-4.9	-0.9	-0.2	-1.1
固定資産処分損他	-3.6	0.3	-3.3	0.5	0.1	0.6	+4.1	-0.2	+3.9
営業外損益	21.0	-4.9	16.1	-4.0	26.4	22.4	-25.0	+31.3	+6.3
特別利益	6.0	0.0	6.0	8.2	0.0	8.2	+2.2	0.0	+2.2
特別損失	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特別損益	6.0	0.0	6.0	8.2	0.0	8.2	+2.2	0.0	+2.2

※1 為替レート(円/ドル): 23/3末 133.54、23/9末 149.58、23/12末 141.82、
24/3末 151.40、24/9末 142.82、24/12末 158.17

続きまして 8 ページでございます。

営業外損益と特別損益の状況でございますが、真ん中に 3Q というところがございまして、今期でいいますと特に目立ちますが、上から 3 行目の為替差損益でございます。冒頭申し上げましたように、12 月末の為替レートは下段に書いてございます注釈の通りですね。158 円と、かなりドル高に振れた関係で、この 3Q は大きな営業外収益ということになりました。

この結果、前年同期比で言いますと、右から 2 列目でございます通り、営業外損益では 31 億円の増益ということになっておりますが、特別損益については特に変動はございません。

キャッシュ・フロー

2024年度1-3Q実績のフリー・キャッシュ・フローは339億円、前年同期121億円の増加

(億円)

	2023年度 実績	2024年度 実績	前年同期比
	1-3Q	1-3Q	
営業活動によるキャッシュ・フロー	337	473	+136
税金等調整前純利益	357	442	+85
特別損益(マイナスは益)	-6	-8	-2
減価償却費※1	95	101	+6
法人税等の支払	-155	-116	+39
運転資金増減他	46	54	+8
投資活動によるキャッシュ・フロー	-119	-134	-15
設備投資※2	-140	-127	+13
投資有価証券購入・売却	7	-1	-8
その他	14	-6	-20
フリー・キャッシュ・フロー	218	339	+121
財務活動によるキャッシュ・フロー	-259	-274	-15
株主還元(配当)	-230	-227	+3
株主還元(自己株式取得)	-58	-100	-42
有利子負債増減	71	53	-18
その他	-42	0	+42
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	-1	-2
現金及び現金同等物の増減額	-40	64	+104
現金及び現金同等物の残高	257	292	+35

※1 のれん償却費を含む

※2 無形資産を含む

続きましてキャッシュ・フローが9ページでございます。

真ん中の列にこの1-3Qの累計ということで載せております。営業キャッシュ・フローで言えば473億円ということで、前年同期に対しましてプラス130億円強のキャッシュ・インということになりました。

一方、投資活動につきましては134億円のキャッシュ・アウトということで、フリー・キャッシュ・フローでは340億円弱でございます。前年同期比では約120億円の増加となっております。

現預金につきましても、292億円でございます。前年対比では若干増えているということがございます。

貸借対照表

(億円)

	2023年12月末	2024年3月末	2024年12月末	前期末比		2023年12月末	2024年3月末	2024年12月末	前期末比
流動資産	1,894	2,020	2,054	+34	負債	883	926	1,010	+84
現預金	257	227	292	+65	買入債務	234	204	237	+33
売上債権	642	888	730	-158	借入金、CP、社債	367	410	477	+67
たな卸資産	849	782	906	+124	その他	282	312	296	-16
その他	146	123	126	+3	純資産	2,214	2,309	2,288	-21
固定資産	1,203	1,215	1,244	+29	株主資本※1	2,061	2,139	2,131	-8
有形固定資産	756	774	779	+5	その他有価証券評価差額金	86	83	77	-6
無形固定資産	114	107	130	+23	為替換算調整勘定	33	42	39	-3
投資有価証券	275	261	254	-7	非支配株主持分	33	34	32	-2
その他	58	73	81	+8	退職給付に係る調整累計額	1	11	9	-2
資産合計	3,097	3,235	3,298	+63	負債純資産合計	3,097	3,235	3,298	+63
					自己資本比率	70.4%	70.3%	68.4%	
					D/Eレシオ※2	5.4%	8.5%	8.7%	

投資有価証券(固定資産)の内訳

	2023年12月末	2024年3月末	2024年12月末	前期末比	参考
上場株式※3 (単体ベース保有銘柄数)	179 (26)	171 (24)	165 (24)	-6 (0)	2018年3月末 300 (55)
非上場株式	25	23	22	-1	17
関係会社株式	71	67	67	0	68
合計	275	261	254	-7	385
純資産に占める 政策保有株式の割合※4	8.3%	7.7%	7.4%		17.0%

※1 株主資本増減 -8 = 純利益317 - 配当その他325 ※2 D/Eレシオ = (借入金、CP、社債 - 現金預金) / 株主資本

※3 24/3末 171 + 取得0 + 評価差額 -6 = 24/12末 165 ※4 政策保有株式割合 = 政策保有株式(単体ベース、上場株 + 非上場株) / 純資産(連結ベース)

| 10

続きまして10ページ。バランスシートでございますが、左上、資産合計で63億円。これは前期末比ですから、3月末対比ということになりますが、増加しております。内訳で言いますと現預金、それから棚卸資産の増加ということに對しまして、売上債権は回収が進んだということで、ここは減少ということでございます。

棚卸資産につきましては、前期末比でプラス124億円ということでございますが、12月末比で1年前と比べますと60億円弱の増加ということでございます。私どもとしては、増加のペースはだいぶ鈍化してきたと考えております。

一方、右の負債サイドでございますが、買入債務の増加、また借入金等の有利子負債も若干増加しているということでございます。

この結果、自己資本比率は右下にございますように68.4%ということでございますが、引き続き健全な財務体質を維持できていると思っております。

投資有価証券の内訳につきましては、左下の通り純資産に占める政策保有株式の割合は7%前半ということでございます。

セグメント別 2024年度3Q決算 前年同期比

(億円)

		2023年度 実績			2024年度 実績			前年同期比		
		上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q
化学品	売上高	179	96	275	179	102	281	0 (0%)	+6 (+6%)	+6 (+2%)
	営業利益	-1	4	3	-4	5	1	-3 (-)	+1 (+21%)	-2 (-77%)
機能性材料	売上高	405	214	619	486	256	742	+81 (+20%)	+42 (+19%)	+123 (+20%)
	営業利益	111	63	174	144	79	223	+33 (+29%)	+16 (+26%)	+49 (+28%)
農業化学品	売上高	353	132	485	392	146	538	+39 (+11%)	+14 (+11%)	+53 (+11%)
	営業利益	116	29	145	142	37	179	+26 (+22%)	+8 (+28%)	+34 (+23%)
ヘルスケア	売上高	35	13	48	33	11	44	-2 (-7%)	-2 (-13%)	-4 (-9%)
	営業利益	18	5	23	13	3	16	-5 (-30%)	-2 (-25%)	-7 (-29%)
卸売・その他・ 調整額	売上高	85	41	126	92	51	143	+7	+10	+17
	営業利益	-3	-8	-11	-12	4	-8	-9	+12	+3
合計	売上高	1,057	496	1,553	1,182	566	1,748	+125 (+12%)	+70 (+14%)	+195 (+13%)
	営業利益	241	93	334	283	128	411	+42 (+18%)	+35 (+36%)	+77 (+23%)

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ 卸売：日産産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・NC東京ベイ・NCアグリ函館(農業製品の製造。2024年度より連結子会社化)・日本肥糧ほか、
調整額：企画本部ほか(内訳はp57,p58参照)

| 12

次に、セグメント概況に移ります。

個別の具体的な数字は12ページからございまして、12ページが各セグメント別の前年同期比を表しております。

セグメント別 2024年度3Q決算 業績予想比

(億円)

		2024年度 予想 (2024年11月発表)		2024年度 実績		業績予想比
		3Q	1-3Q	3Q	1-3Q	3Q
化学品	売上高	103	282	102	281	-1
	営業利益	2	-2	5	1	+3
機能性材料	売上高	245	731	256	742	+11
	営業利益	73	217	79	223	+6
農業化学品	売上高	125	517	146	538	+21
	営業利益	24	166	37	179	+13
ヘルスケア	売上高	11	44	11	44	0
	営業利益	3	16	3	16	0
卸売・その他・ 調整額	売上高	38	130	51	143	+13
	営業利益	-8	-20	4	-8	+12
合計	売上高	522	1,704	566	1,748	+44
	営業利益	94	377	128	411	+34

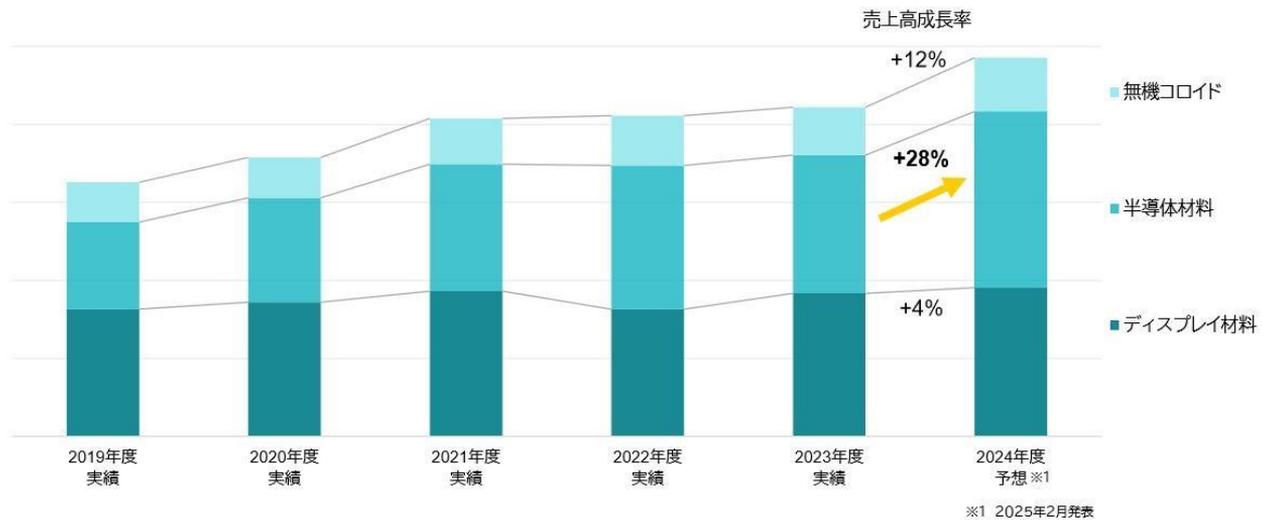
※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ 卸売：日星産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・NC東京ベイ・NCアグロ函館（農業製品の製造。2024年度より連結子会社化）・日本肥糧ほか、調整額：企画本部ほか（内訳はp57,p58参照）

また 13 ページは業績予想比のセグメント別数値です。のちほどご確認ください。

- ディ스플레이材料は、2022年度を底として回復。キャッシュカウとして安定的な売上高を維持
- 半導体材料は、2023年度は一時的な調整局面にあったが、市場の回復に伴い、足元では高い成長率を見込む
EUV材料は顧客生産増により伸長し、中長期での成長トレンドは不変
- サブセグメント売上高構成では、成長ドライバーである半導体材料がディスプレイ材料を上回る

機能性材料サブセグメント売上高推移



それではまず、機能性材料セグメントから申し上げます。15 ページに飛んでいただきます。

のちほどご説明しますが、今年度の下期予想につきましては、この11月発表値から変えておりませんので、このグラフの売上高成長率も同様に11月と同じという認識でございます。特に半導体材料がかなり伸びるということでございます。

- ディ스플레이材料は、1-3Qで4%増収、業績予想比でも上ぶれ
- 半導体材料は、1-3Qで39%増収、業績予想比でも上ぶれ
- 無機コロイドは、1-3Qで17%増収、業績予想比でも上ぶれ

主要製品	前年同期比		業績予想比
	3Q	1-3Q	3Q
ディスプレイ材料合計	+9%	+4%	上ぶれ
ARC®	+15%	+26%	下ぶれ
多層材料	+96%	+78%	上ぶれ
EUV材料※1	+21%	+35%	下ぶれ
半導体材料合計	+34%	+39%	上ぶれ
無機コロイド合計	+11%	+17%	上ぶれ
機能性材料セグメント合計	+19%	+20%	上ぶれ

※1 EUV材料: EUV向け下層膜とSI-HMの合計

続いて 16 ページでございます。

売上高の主要製品の成長率ということで、前年同期比ベースで3Qと1-3Qの累計をそれぞれお示ししております。

見ていただくとディスプレイで、この3QはYoYでプラス9%。半導体材料も、特に多層材料中心に非常に強かったということで、プラス34%。無機コロイドもプラス11%でございまして、セグメント全体としては20%弱の伸びでございました。

(億円)

	2023年度 実績			2024年度 実績			前年同期比		
	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q
売上高	405	214	619	486	256	742	+81	+42	+123
営業利益	111	63	174	144	79	223	+33	+16	+49

固定費等【3Q】増加10億円【1-3Q】増加31億円

ディスプレイ	【3Q】増収・増益 【1-3Q】増収・増益	半導体	【3Q】増収・増益 【1-3Q】増収・増益
光IPS	非スマホ向け全般で増収 【3Q】増収(大型モニター、車載向け増収) 【1-3Q】増収(大型モニター、ノートPC向け増収)		先端世代を中心に市場回復、顧客稼働増 3Qは、2Qと同様に一部在庫積み増しあり
ラビングIPS	【3Q】増収 【1-3Q】減収	ARC®	【3Q】【1-3Q】増収
VA	【3Q】【1-3Q】増収(TV生産回復)	多層材料	【3Q】【1-3Q】増収
固定費等	【1-3Q】増加1億円	EUV材料	【3Q】【1-3Q】増収
		固定費等	【3Q】増加11億円【1-3Q】増加30億円
		無機コロイド	【3Q】増収・増益 【1-3Q】増収・増益 【3Q】スノーテックス(特に研磨剤)、オルガノ・モノマーゾル増収 【1-3Q】スノーテックス(特に研磨剤)、オルガノ・モノマーゾル増収

| 17

次 17 ページは、この 3Q における前年同期比の売上と営業利益の数字をお示ししております。

まず、ディスプレイでございますが、左にございますように 3Q、1-3Q 累計とも増収増益でございました。

特に光 IPS は大型モニター、あるいは車載向けがこの 3Q の増収を牽引したということでございます。

一方、右の半導体でございますが、ここもいずれも増収増益ということでございます。先端世代を中心に市場回復、また顧客の稼働も増ということでございます。

また 1 点で、3Q につきましては 2Q と同様に一部、顧客での在庫積み増しもございました。

無機コロイドでも増収増益ということございまして、特にスノーテックスの研磨剤、またオルガノ・モノマーゾルも好調ということでございます。

なお、ここは固定費等ということで、この左上の表の下に小さな記載がございますけれども、3Q の YOY で 10 億円の増加、1-3Q 累計では 31 億円の増加ということでございます。

大半がいずれも半導体でございまして、在庫での変動影響も含みますが、固定費も増えているというところでございます。

機能性材料セグメント 2024年度3Q決算 業績予想比



	2024年度 予想 (2024年11月発表)		2024年度 実績		業績予想比
	3Q	1-3Q	3Q	1-3Q	3Q
	売上高	245	731	256	742
営業利益	73	217	79	223	+6

固定費等【3Q】下ぶれ2億円(増益要因)

ディスプレイ

【3Q】売上高・営業利益上ぶれ

- 光IPS 売上高上ぶれ
(大型モニター、タブレット向け上ぶれ)
- ラビングIPS 売上高下ぶれ
- VA 売上高上ぶれ(24年度4Qからの出荷前倒し)

半導体

【3Q】売上高上ぶれ・営業利益予想通り

先端世代を中心に市場回復、顧客稼働増
3Qは、2Qと同様に一部在庫積み増しあり

- ARC® 売上高下ぶれ(一部顧客で稼働減)
- 多層材料 売上高上ぶれ
- EUV材料 売上高下ぶれ(一部顧客で稼働減)

**無機
コロイド**

【3Q】売上高・営業利益上ぶれ

オルガノ・モノマーゾル売上高上ぶれ
固定費等 下ぶれ2億円(増益要因)

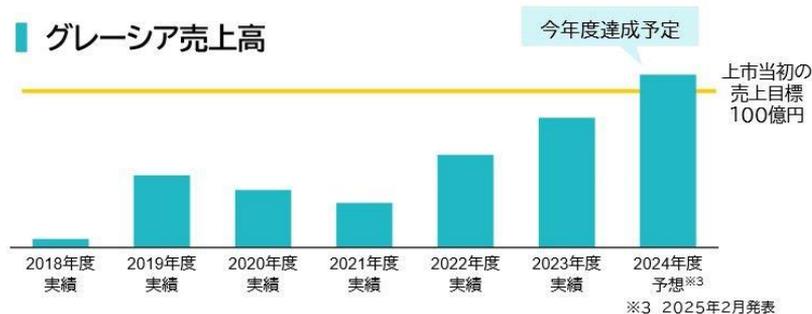
18 ページに移ります。ここは機能性セグメントの業績予想比を、お示しをしております。

ここは、それぞれ記載の通りということでございます。一部半導体で右下に少し書いてございますが、売上高上振れ、営業利益は予想通りということでございますけども、ARC あるいは EUV 材料で若干、一部顧客での稼働減がございました。

■ 1-3Qで11%増収、業績予想比でも上ぶれ

主要製品名 (農業:2024年度売上高順)	種類	前年同期比		業績予想比
		3Q	1-3Q	3Q
ラウンドアップ ^{※1}	除草剤	+2%	-1%	上ぶれ
アルテア	除草剤	-11%	+8%	上ぶれ
グレーシア	殺虫剤	+12%	+33%	下ぶれ
タルガ	除草剤	-5%	-37%	上ぶれ
ダイセン	殺菌剤	-30%	-26%	下ぶれ
パーミット	除草剤	+332%	+9%	上ぶれ
ライメイ	殺菌剤	+149%	+130%	上ぶれ
動物薬 フルラナレル	動物薬	-3%	+14%	上ぶれ
セグメント合計 ^{※2}	-	+11%	+11%	上ぶれ

■ グレーシア売上高



参考

ラウンドアップの現状説明会資料 [☑](#)
(2020年1月22日発表)
農業化学品事業説明会資料 [☑](#)
(2022年9月28日発表)

※1 ラウンドアップALは、2024年度1-3Q実績のラウンドアップ売上高全体の31%を占める
※2 セグメント合計の前年同期比は値引きを含む

続きまして、農業化学品に移ります。20 ページでございます。

3Q とそれから 1-3Q 累計の前年同期比の、主要製品の成長率をお示ししております。

セグメント全体では 3Q、1-3Q 累計とも、YoY で 11%の増収。業績予想比でも上振れということでございますが、YOY では特にグレーシアあるいはライメイが非常に強い数字で示されております。

また、グレーシアの売上高の推移でございますが、左下の棒グラフでございますように、今期につきましては順調に増収を達成する見込みで、上市当初の売上目標として 100 億円とターゲットを置いておりましたが、これは今期でクリアする見込みでございます。

(億円)

	2023年度 実績			2024年度 実績			前年同期比		
	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q
売上高	353	132	485	392	146	538	+39	+14	+53
営業利益	116	29	145	142	37	179	+26	+8	+34

固定費等【3Q】増加4億円【1-3Q】増加2億円(一過性要因(償却費減少11億円)を含む)

【3Q】増収・増益

ラウンドアップ	増収	パーミット	増収(輸出:24年度は3Qに販売が偏重)
アルテア	減収(輸出:アジアでの流通在庫影響)	ライメイ	増収(輸出:欧州での需要増)
グレーシア	増収(国内:拡販)	フルララネル	減収(原薬:一部出荷上期へ前倒しにより減収、ロイヤリティ:減収、一部円高影響あり)
ダイセン	減収(輸出:24年度は4Qに販売が偏重)		

【1-3Q】増収・増益

ラウンドアップ	減収(ML:流通在庫影響により数量減)	パーミット	増収(輸出:欧州での需要増)
グレーシア	増収(国内:拡販、輸出:アジア等での拡販)	ライメイ	増収(輸出:欧州での需要増)
タルガ	減収(輸出:23年度へ出荷前倒し、欧州での流通在庫影響)	フルララネル	増収(原薬出荷・ロイヤリティともに増収、一部円安影響あり)
ダイセン	減収(輸出:24年度は4Qに販売が偏重)		

21 ページ。ここは前年同期比でございます。

それぞれ増収増益ということもございますけども、内訳として個別の製品ごとに、少しコメントをしております。

農業化学品セグメント 2024年度3Q決算 業績予想比



(億円)

	2024年度 予想 (2024年11月発表)		2024年度 実績		業績予想比
	3Q	1-3Q	3Q	1-3Q	3Q
売上高	125	517	146	538	+21
営業利益	24	166	37	179	+13

固定費等【3Q】下ぶれ2億円(増益要因)

【3Q】売上高・営業利益上ぶれ

ラウンドアップ 売上高上ぶれ

グレーシア 売上高下ぶれ(輸出:下ぶれ)

タルガ 売上高上ぶれ(輸出:一部出荷4Qより前倒し)

パーミット 売上高上ぶれ(輸出:米国、アジアでの需要増による増収)

ライメイ 売上高上ぶれ(輸出:一部出荷4Qより前倒し)

フルララネル 売上高上ぶれ
(原薬:上ぶれ、ロイヤリティ:予想通り、一部円高影響あり)

それから 22 ページ。ここは業績予想比でございまして、同様の形ということになります。のちほどご覧ください。

- 当社が発明した化合物「フルララネル」を有効成分とするブラベクト®シリーズ・エグゾルト®は現在100か国以上で販売中
- ブラベクト®最大の特徴は12週間にわたる効果持続性(競合製品は1か月程度)

1. フルララネル(有効成分)

2. ブラベクト® 外部寄生虫薬 (犬・猫用)

3. ブラベクト® 内外部寄生虫薬 (犬・猫用)

4. エグゾルト® (鶏・牛・羊用)



1. フルララネル(Fluralaner)

- ブラベクト®・エグゾルト®の有効成分。当社がMSD社※1に供給
- これまでのペット用外部寄生虫薬とは異なる新たな作用機序を有している
- 化合物特許
 - 2025年3月に終了するが、多数の国で延長制度あり
 - UK、ドイツ、フランス等一部欧州諸国では、2029年2月まで延長済み、米国は2027年6月まで延長済み

2. ブラベクト® (BRAVECTO®) 外部寄生虫薬

- MSD社が開発したペット用外部寄生虫薬。犬・猫のノミ、マダニの主要種に対し即効性に優れる
- 通常1か月毎に投薬する既存製品より殺虫効果の持続性が長く、12週間※2にわたって持続する
- 犬向けチュアブルタブレット(経口投与製剤)
 - 2014年4月欧州、以降米国、日本等上市
 - 2020年7月1か月剤(子犬向け)米国上市
- 犬、猫向けスポットオン製品(経皮投与製剤)
 - 2016年7月欧州、以降米国、日本等上市
- 犬向け注射剤 (BRAVECTO® Quantum)
 - 12か月※3の効果持続性
 - 2024年6月豪州、以降欧州等上市

3. ブラベクト® (BRAVECTO®) 内外部寄生虫薬

- BRAVECTO® Plus
 - 猫向けスポットオン合剤
 - 2018年7月欧州、以降米国、日本等上市
- BRAVECTO® TriUNO
 - 犬向けチュアブルタブレット(3種合剤)
 - 1か月の効果持続性
 - 2024年10月欧州、中南米にて承認

4. エグゾルト® (EXZOLT®)

- 鶏向けワクモ駆除剤(飲水投与)
 - 2017年欧州、以降韓国、中東、日本等上市
- 牛向け 2022年ブラジル、以降メキシコ上市
- 羊向け 2023年豪州、NZ上市

※1 米国メルク社のアニマルヘルス事業部門のMSD Animal Health 社の略称

※2 クリイロコイタマダニは8週間

※3 クリイロコイタマダニは11か月

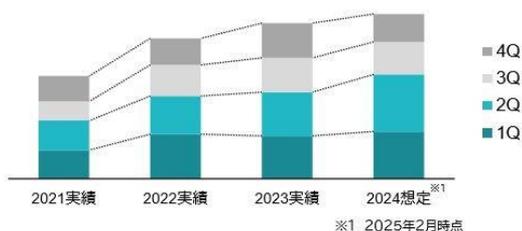
それから、あとは25ページまで飛びます。今回、フルララネルの化合物特許に関しまして、アップデートをしております。

この25ページの左下にございますように、米国につきましては2027年6月までの延長ということが確定をいたしました。従って、その旨ここに記載をしております。

■ 当社のフルララネル売上高の構成

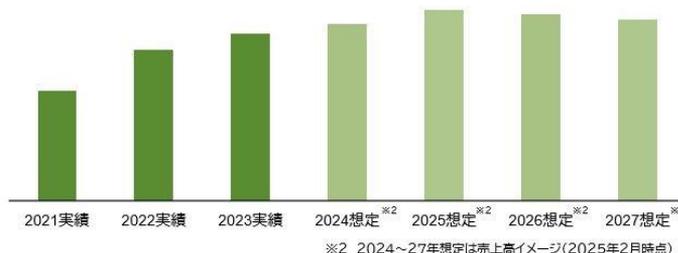
MSD社へのフルララネル販売 + MSD社からのランニングロイヤリティ(RR)

■ 2021～2024年度 四半期別売上高推移 (RR収入含む)



ロイヤリティ収入は、2020年度まで2・4Q計上だったが、会計方針の変更にもとない、2021年度からは各四半期に計上されている(p59参照)

■ 2021年度実績～2027年度想定 売上高イメージ推移 (RR収入含む)



- ・2022年度は、2021年度からの出荷後ろ倒しと円安影響により大幅増収実績為替レートは136円/ドル
- ・2023年度の実績為替レートは145円/ドル
- ・2024年度の想定為替レートは152円/ドル
- ・2025年度、26年度、27年度の想定為替レートは140円/ドル

■ ブラベクト®の拡大に向けたMSD社の開発状況

- フルララネルを有効成分とするペット向けの新たな内外部寄生虫薬や、既存製品の登録国数の拡大に向けMSD社が開発中

26 ページには、右側の棒グラフでございますけども、こういったことを反映しまして今回、売上高の、あくまでもイメージということでございますが、27年度までの想定をここにお示ししております。細かい数字は大変恐縮ですが非開示ということですが、イメージということで、ここに掲載をしております。

ご覧いただくとわかるように、24年度以降、それほど大きく変動はないということでございます。なお、この想定為替レートにつきましては、右下のボックスでございますように、25年度以降は、ドル円140円で試算をしておるということでございます。

(億円)

	2023年度 実績			2024年度 実績			前年同期比		
	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q
売上高	179	96	275	179	102	281	0	+6	+6
ファインケミカル	60	30	90	63	34	97	+3	+4	+7
基礎化学品	119	66	185	116	68	184	-3	+2	-1
営業利益	-1	4	3	-4	5	1	-3	+1	-2

固定費等【3Q】増加1億円【1-3Q】増加6億円

	【3Q】増収・増益	【1-3Q】増収・増益
ファインケミカル	テピック一般	【3Q】-17%減収 【1-3Q】+14%増収
	テピック電材	【3Q】+23%増収(上期から一部出荷後ろ倒し) 【1-3Q】+12%増収
	環境化学品	【3Q】+20%増収 【1-3Q】+3%増収
	ファインオキシコール	【3Q】+54%増収(化粧品用途需要回復) 【1-3Q】+28%増収(化粧品用途需要回復)
基礎化学品	尿素・アドブルー®	【3Q】+3%増収 【1-3Q】-9%減収 (上期は震災影響による在庫水準減で出荷減)
	高純度硫酸	【3Q】+9%増収(半導体向け需要増) 【1-3Q】+25%増収(半導体向け需要増)
	硝酸製品	【3Q】-1%減収 【1-3Q】-4%減収

それから、続きまして、化学品セグメントでございます。29 ページまで飛びます。

ここには前年同期比の売上と営業利益を、お示ししております。

この3Q でいきますと売上高は前年同期比でプラス6億円ということでございまして、一方、営業利益も若干プラス1億円の増益ということになりました。

3Q ではファインケミカルにおきまして、特にテピック、一般はやや減収でございますが、テピックの電材向け、環境化学品、それからファインオキシコールはそれぞれ増収となりました。

(億円)

	2024年度 予想 (2024年11月発表)		2024年度 実績		業績予想比
	3Q	1-3Q	3Q	1-3Q	3Q
売上高	103	282	102	281	-1
ファインケミカル	34	97	34	97	0
基礎化学品	69	185	68	184	-1
営業利益	2	-2	5	1	+3

固定費等 【3Q】下ぶれ2億円(増益要因)

【3Q】売上高予想通り、営業利益上ぶれ		【3Q】売上高・営業利益下ぶれ			
ファインケミカル	テビック一般	売上高下ぶれ	基礎化学品	尿素・アドブルー®	売上高予想通り
	テビック電材	売上高上ぶれ		高純度硫酸	売上高下ぶれ (顧客稼働の下ぶれ)
	環境化学品	売上高下ぶれ		硝酸製品	売上高予想通り
	ファインオキシコール	売上高上ぶれ (化粧品用途需要回復)			

続きまして 30 ページ、業績予想比でございますが、3Q で営業利益が 3 億円程度上振れておりますけれども、このうち 2 億円は表の左下に記載してあります通り、固定費等、ここは特に在庫変動影響でございますけれども、これが増益要因に働いたということもございました。

(億円)

	2023年度 実績			2024年度 実績			前年同期比		
	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q
売上高	35	13	48	33	11	44	-2	-2	-4
ヘルスケア	13	6	19	8	5	13	-5	-1	-6
ファインテック	23	7	30	25	6	31	+2	-1	+1
営業利益	18	5	23	13	3	16	-5	-2	-7
ヘルスケア	6	2	8	1	1	2	-5	-1	-6
ファインテック	12	3	15	11	2	13	-1	-1	-2

※ 億円未満を四捨五入して表示しており、これによりヘルスケア・ファインテックの合算値はセグメント合計と一致しない場合がある

【3Q】減収・減益

ヘルスケア減収(リパロ国内増収も、輸出減収)、ファインテック減収(上期への一部出荷前倒し)

【1-3Q】減収・減益

ヘルスケア減収(リパロ国内・輸出とも減収)、ファインテック増収(顧客在庫積み増しによる出荷増や23年度から24年度への出荷後ろ倒し)

| 34

それから最後にヘルスケアセグメントでございます。34 ページまで飛びます。

ここに記載の通り、前年同期比は3Qで売上高、営業利益とも若干のマイナスということでございます。

(億円)

	2024年度 予想 (2024年11月発表)		2024年度 実績		業績予想比
	3Q	1-3Q	3Q	1-3Q	3Q
売上高	11	44	11	44	0
ヘルスケア	3	11	5	13	+2
ファインテック	7	32	6	31	-1
営業利益	3	16	3	16	0
ヘルスケア	0	1	1	2	+1
ファインテック	3	14	2	13	-1

※ 億円未満を四捨五入して表示しており、これによりヘルスケア・ファインテックの合算値はセグメント合計と一致しない場合がある

【3Q】売上高・営業利益予想通り

ヘルスケア売上高上ぶれ(リパロ国内・輸出とも上ぶれ)、ファインテック売上高下ぶれ(ジェネリック原薬出荷下ぶれ)

| 35

業績予想比につきましては、35ページにございます通りですね。売上高、営業利益とも3Qだけで見ますとほぼ予想通りでございました。

2024年度業績予想を上方修正(通期営業利益 550億円)

1-3Q実績および4Q見通しを踏まえ、通期予想を策定

主要セグメント※1の通期予想は2024年11月発表から据え置き、調整額予想を上方修正

通期	前年同期比	
		■ 売上高は209億円増収(+9%) <small>※1 化学品、機能性材料、農業化学品、ヘルスケア</small>
		■ 営業利益は68億円増益(+14%)、純利益は29億円増益(+8%)
		■ 営業利益は過去最高益を更新
		■ ROE予想は17.7%
通期	業績予想比 (2024年11月発表予想との比較)	
		■ 売上高は26億円上ぶれ
		■ 営業利益は20億円上ぶれ、純利益は15億円上ぶれ

足元の状況

今回発表した4Q予想値に対する、足元での主要セグメントの4Q売上見込みは以下の通り

- 半導体や無機、海外農薬は上ぶれる可能性あり
- 動物薬やファインテックは2025年度への一部出荷期ずれにより下ぶれる可能性あり

株主還元予想

- 年間配当 164円 (2024年11月発表から変更なし)
- 自己株式取得 100億円 完了(期間:2024年5月~12月)

配当	通期164円(中間70円、期末94円) 配当性向55.2% 前年比:同額、2024年11月発表比:変更なし
自己株式取得	100億円 完了(取得期間:2024年5月~12月、2.0百万株) 2023年度実績:100億円、1.7百万株
自己株式消却	1.0百万株 消却済(2024年9月)
総還元性向予想	79.4%
中期経営計画目標	総還元性向75%、配当性向55%

| 37

続きまして、37 ページ、冒頭申し上げました業績予想の上方修正についてご説明いたします。

冒頭記載の通り、通期の営業利益としては 550 億円ということにさせていただきました。ここは 1-3Q の実績の先ほど申し上げました数字、および 4Q の見通しを踏まえまして、策定したということでございます。

ただし、そこがございますように、主要セグメントの通期予想は 11 月の発表から据え置いているということございまして、調整額の予想を上方修正したということでございます。

まだ 2 月の初旬でして、当然 4Q の見通しはなかなか精緻には立てにくいいため、このような形にしたということになります。

この結果、前年同期比では通期として、売上高はプラス 9%。営業利益はプラス 14%、68 億円の増益を見込んでいます。純利益はプラス 8%、29 億円の増益ということになります。

550 億円というレベルは営業利益としては過去最高益の更新予定ということになります。なお、ROE につきましては予想値として 17.7%ということになります。業績予想比ではその下に記載の通り、営業利益では 20 億円の上振れということでございます。

ただ、足元の状況ということで、2段落目に記載しておりますけれども、今回発表しました4Qの予想値に対する足元での主要セグメントの4Qの売上見込みを、トレンドという意味で、現時点で見える範囲ということでございますけれども、記載をしております。

半導体や無機、海外農薬は上振れる可能性がある。一方で、動物薬、ファインテックは2025年度への一部出荷期ずれによる下振れという可能性もあることをここで追加しております。

この結果、株主還元予想でございますが、先ほど申し上げました通り、年間配当164円は変更なし。自己株式取得も12月で終了した100億円取得完了ということでございますので、総還元性向につきましては記載の通り79.4%。中期経営計画目標をクリアする見込みでございます。

2024年度業績予想サマリー 前年同期比



(億円)

	2023年度 実績					2024年度 予想 (2025年2月発表)					前年同期比				
	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期 実績	3Q 実績	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高	1,057	496	714	1,210	2,267	1,182	566	728	1,294	2,476	+125 (+12%)	+70	+14	+84 (+7%)	+209 (+9%)
営業利益	241	93	148	241	482	283	128	139	267	550	+42 (+18%)	+35	-9	+26 (+11%)	+68 (+14%)
営業外損益	21	-5	18	13	34	-4	26	-13	13	9	-25	+31	-31	0	-25
為替差損益	19	-8	11	3	22	-8	18	-15	3	-5	-27	+26	-26	0	-27
経常利益	262	88	166	254	516	279	154	126	280	559	+17 (+7%)	+66	-40 (+10%)	+26 (+8%)	+43 (+8%)
特別損益	6	0	-4	-4	2	8	0	6	6	14	+2	0	+10	+10	+12
純利益 ^{※1}	195	65	120	185	380	205	112	92	204	409	+10 (+5%)	+47	-28 (+10%)	+19 (+8%)	+29 (+8%)
EBITDA ^{※2}	300	129	191	320	620	345	167	182	349	694	+45	+38	-9	+29	+74
EPS(円/株)	139.55	46.47	86.80	133.27	272.82	148.78	81.49	66.98	148.47	297.25	+9.23	+35.02	-19.82	+15.20	+24.43
配当(円/株)	70	-	-	94	164	70	-	-	94	164	0	-	-	0	0
配当性向(%)	-	-	-	-	60.1%	-	-	-	-	55.2%	-	-	-	-	-4.9pt
配当総額	98	-	-	130	228	96	-	-	129	225	-2	-	-	-1	-3
売上高営業利益率	22.8%	18.8%	20.7%	19.9%	21.3%	24.0%	22.5%	19.1%	20.6%	22.2%	+1.2pt	+3.7pt	-1.6pt	+0.7pt	+0.9pt
ROE	-	-	-	-	17.1%	-	-	-	-	17.7%	-	-	-	-	+0.6pt
為替レート(円/ドル)	141	148	149	148	145	153	152	150	150	152	-	-	-	-	-
原油(JCC) (ドル/bbl) ^{※3}	83	91	84	88	86	87	78	87	83	85	-	-	-	-	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す ※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 ※3 実績は財務省貿易統計ベース

| 38

具体的な数字は38ページでございまして、真ん中の年間というところを見ていただきますと、ブルーのところですけども。売上高として2,476億円。営業利益で550億円。経常利益は559億円。当期純利益が409億円ということでございます。

なお、為替レートにつきましては下から2行目にございますように、3Q実績152円でしたが、この4Qはドル円で150円という置き方をしております。

2024年度業績予想サマリー 業績予想比

(億円)

	2024年度 予想 (2024年11月発表)			2024年度 予想 (2025年2月発表)			業績予想比	
	上期 実績	下期	年間	上期 実績	下期	年間	下期	年間
売上高	1,182	1,268	2,450	1,182	1,294	2,476	+26	+26
営業利益	283	247	530	283	267	550	+20	+20
営業外損益	-4	6	2	-4	13	9	+7	+7
為替差損益	-8	0	-8	-8	3	-5	+3	+3
経常利益	279	253	532	279	280	559	+27	+27
特別損益	8	6	14	8	6	14	0	0
純利益 ^{※1}	205	189	394	205	204	409	+15	+15
EBITDA ^{※2}	345	329	674	345	349	694	+20	+20
EPS(円/株) ^{※3}	148.78	137.16	285.94	148.78	148.47	297.25	+11.31	+11.31
配当(円/株)	70	94	164	70	94	164	0	0
配当性向(%) ^{※3}	-	-	57.4%	-	-	55.2%	-	-2.2pt
配当総額	96	129	225	96	129	225	0	0
売上高営業利益率	24.0%	19.4%	21.6%	24.0%	20.6%	22.2%	-	-
ROE	-	-	17.1%	-	-	17.7%	-	+0.6pt
為替レート(円/ドル)	153	145	149	153	150	152	-	-
原油(JCC)(ドル/bbl) ^{※3}	87	87	87	87	83	85	-	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す ※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 ※3 実績は財務省貿易統計ベース

続きまして、39 ページ。これは業績予想比でございますので、のちほどご覧ください。

セグメント別 2024年度通期 前年同期比

(億円)

	2023年度 実績					2024年度 予想 (2025年2月発表)					前年同期比					
	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期 実績	3Q 実績	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間	
化学品	売上高	179	96	81	177	356	179	102	104	206	385	0 (0%)	+6	+23	+29 (+17%)	+29 (+8%)
	営業利益	-1	4	-3	1	0	-4	5	0	5	1	-3 (-)	+1	+3	+4 (-)	+1 (-)
機能性材料	売上高	405	214	227	441	846	486	256	232	488	974	+81 (+20%)	+42	+5	+47 (+11%)	+128 (+15%)
	営業利益	111	63	51	114	225	144	79	60	139	283	+33 (+29%)	+16	+9	+25 (+22%)	+58 (+26%)
農業化学品	売上高	353	132	336	468	821	392	146	325	471	863	+39 (+11%)	+14	-11	+3 (+1%)	+42 (+5%)
	営業利益	116	29	89	118	234	142	37	78	115	257	+26 (+22%)	+8	-11	-3 (-3%)	+23 (+10%)
ヘルスケア	売上高	35	13	15	28	63	33	11	18	29	62	-2 (-7%)	-2	+3	+1 (+6%)	-1 (-2%)
	営業利益	18	5	5	10	28	13	3	7	10	23	-5 (-30%)	-2	+2	0 (+2%)	-5 (-18%)
卸売・その他・ 調整額	売上高	85	41	55	96	181	92	51	49	100	192	+7	+10	-6	+4	+11
	営業利益	-3	-8	6	-2	-5	-12	4	-6	-2	-14	-9	+12	-12	0	-9
合計	売上高	1,057	496	714	1,210	2,267	1,182	566	728	1,294	2,476	+125 (+12%)	+70	+14	+84 (+7%)	+209 (+9%)
	営業利益	241	93	148	241	482	283	128	139	267	550	+42 (+18%)	+35	-9	+26 (+11%)	+68 (+14%)

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ 卸売：日星産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・NC東京ベイ・NCアグリ函館（農業製品の製造。2024年度より連結子会社化）・日本肥糧ほか、調整額：企画本部ほか（内訳はp57,p58参照）

※ 企画本部の2023年度実績・2024年度予想(2025年2月発表)はp47を参照

| 40

また、セグメント別には、4Qの今回の数値を入れまして、40ページに記載をしておりますので、のちほどご確認ください。

私からは以上でございます。

質疑応答

<質問者 1>

Q：今回の通期業績予想は、調整額のみ上方修正したということでしたが、現時点で、セグメント別に予想対比での変動がありそうでしたら教えてください。

A：現時点での話としては、37 ページに記載した足元の状況、まさにここに尽きるのですが、機能性材料の半導体・無機につきましては、今回発表した4Qの業績予想値に対しまして、記載したような形で、上振れで推移するのではないかと考えています。当社としましては、まだ1月が終わったばかりで、あまり利益面の確定的なことは申し上げられませんが、そのような見通しがあるということでございます。今回発表予想の営業利益550億円につきましては、クリアをしたいと思っております。

Q：棚卸資産の水準は、少し多いなとも思いますがいかがでしょうか。

A：ご指摘の通り棚卸資産のボリューム自体は、まだまだ多いという面は否めないですが、1年前あるいは2年前と比較していくと、だいぶ伸びは鈍化してきたかなという感触は持っております。

この12月末はある意味一番在庫の多いタイミングでございまして、ここから徐々に、特に農薬を中心に、4Qに出荷が進むことで在庫が減ってきますので、そこについてはだんだんコントロールできていると思っております。引き続き、この棚卸資産の売上対比の保有日数については、減らしていく努力はしてまいりたいと思っております。

Q：この棚卸資産は、来年度の業績を考える上で、大きな損益悪化に至るほど多くはないということでしょうか。

A：はい。そのように考えております。

Q：次に、ディスプレイ材料の市場動向の変化を、用途別に教えていただけますでしょうか。

A：ディスプレイ材料の市場動向につきまして、LCDに特化してご説明申し上げます。まず、スマホに関しては、ご承知の通り、OLEDシフトが進行している中で減少傾向ではあるのですが、これは今年度の期初に想定していたのと同程度の落ち込みに留まる、というのが感触でございます。これは新興国向けの需要がまだ堅調であるといったところですね。2Q以降、割と好調を継続しております。

IT機種に関しては、特にノートPCとモニターの需要の伸びが大きいと捉えています。年末商戦に向けて3Qは割と好調でした。4Qは通常の季節性通り少し減速するのですが、2025年の1月から3月に限っては、中国の景気刺激策ですとか、そういった社会情勢的な部分も反映されまして、その結果、下期予想はクリアできるのではないかなと思っております。テレビも同じような状況かなと思っております。

車載に関しては、継続的に堅調に伸びてきているところで、四半期ごとに徐々に成長しているような実感を持っております。

Q：半導体材料の市場動向はいかがでしょうか。

A：半導体材料に関しましては、前工程のリソグラフィ材料について、足元はご存知の通り、AIの需要が牽引する形で、先端の稼働がかなり高い稼働率をキープしているということで、この市場環境は4Qと25年度に関しましても継続という見方をしております。

後工程に関しましても、AIの恩恵を受けて、HBMの需要がかなり伸びています。当社の三次元実装材（仮貼り材）も、24年度は伸びていますが、この流れは25年度も継続という形で見えています。

Q：無機コロイドについても市場動向についてコメントをいただけますでしょうか。

A：無機コロイドの足元の状況としましては、半導体用途を中心にしたスノーテックスの研磨剤が堅調に推移しております。それとオルガノゾル・モノマーゾルも堅調に推移しておりますが、こちらは直近ですと3Dプリンタ向けが特に好調で、今後も継続するという見込みであります。

<質問者2>

Q：ブラベクト TriUNO が欧州・中南米で承認されていまして、内外部寄生虫薬ということで、シェアの再拡大に寄与する可能性もあるかなと思っております。TriUNO の上市による期待感を改めてご解説いただけますでしょうか？

A：ブラベクト TriUNO の欧州・中南米の承認については、期待はしておりますが、犬向け注射剤ブラベクト Quantum の欧州での販売が好調であるように聞いており、こちらにより期待をしております。

Q：次に農薬についてお伺いします。流通在庫の状況について、特にラウンドアップとアルテアについては、3カ月前に在庫調整の見通しを示されていたかと思しますので、この2製品の在庫調整の状況のアップデートをお願いします。

A：ラウンドアップについては前回も話に出ましたが、流通在庫がかなり溜まっているところを今期末で整理をする形で進めております。

アルテアについては、当社で生産調整も行っておりますので、今期に関しては数量的には在庫は減少していくと考えております。

Q：ベルダーを下期に上市予定かと思いますが、今こういったスケジュール感になっているのでしょうか。

A：ベルダーに関しましては、当初の予定からは遅れましたが、昨年8月に登録が取れまして、今回発表の予想に対しては、計画どおりに4Qに販売を開始する見込みです。

Q：欧州での販売戦略について確認をさせていただきたいです。直近フランスとスペインの農薬販社の持分を住友化学さんに譲渡されるリリースを出されていますが、御社の場合、欧州でライメイ、タルガ、パーミッドなども販売されているかと思しますので、そういった販売に影響はないのかということも含めてお願いいたします。

A：欧州販社の持分譲渡については当社からも発表しておりますが、欧州での販売に大きな影響はないと考えております。

<質問者3>

Q：半導体材料について、3QはARCとEUV材料が下振れ、多層材料が上振れということですが、その背景を教えてください。また、地域別での強弱があれば教えてください。あわせて1-3月の見方についてもお願いいたします。

A：まずARCとEUV材料の下振れに関しまして、こちらは一部の顧客稼働が減少している影響を受けております。一方、多層材料に関しましては、顧客の新しいデバイスのインプットが増えた影響といったプラス要因で上振れております。地域別の強弱については、どの地域もそんなに悪い状況ではないと見ていまして、今後も、各エリアでの伸びを見込んでおります。

Q：ディスプレイ材料について、中国での補助金の効果があるということでしたが、他の材料メーカーさんからも、テレビ向けでは効果が出始めている印象を感じられます。テレビ以外のその他の

アプリケーションについても、御社から見て引き合いが増えているように見えるのか、その辺りコメントをお願いいたします。

A：中国での補助金に対する効果に関しては、おっしゃった通り、テレビが顕著でございまして、これは他社からお聞きになった内容と同じようなことが当社にも起こっているのは事実です。IT機種に関しても、テレビほどのインパクトではないにせよ、同じような動きがございまして、3Qからの各顧客での在庫積み増しですとか、それに伴う当社の数量増といったことが起こっております。

<質問者 4>

Q：今回の業績予想修正では、前回発表で織り込んでいたリスクバッファーを見直したということですが、どの品目のどういったリスクを見直されたのでしょうか。数量ですとか、価格ですとか、その辺りを教えていただけますでしょうか。

A：前回発表で織り込んだリスクバッファーは、定量的に算定していたということではなくて、例えば、為替の動向、米国の新政権の動向というようなことを、いくつか要素として念頭に置きながら、ある程度の金額を置いたということでございます。

そういう意味では、まだ現時点でも不確実な部分もありますが、為替レートですとか、機能性材料、特に半導体のところも含め足元の事業環境を見て、今回上方修正をいたしました。

Q：すると特定の製品が何かというより、事業環境全体として、当初見込まれていたよりやや改善しているという理解でよろしいでしょうか。

A：そうですね。そのようにご理解いただければと思います。

以上